

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ実行委員会 第14回競技運営専門委員会 議事録（概要）

1 日 時

令和5年（2023年）2月8日（水） 14時00分～15時30分

2 場 所

滋賀県大津合同庁舎7階 7-A会議室

3 出席者

（1）委員（五十音順、敬称略）

浮田 豊史、岡本 直輝、加藤 加織、坂下 和子、澤 弘宣、菅原 万智子、
中村 傳一郎、前田 康一、森 寛、八木 佐知男、山本 将
（委員13名中11名出席） （欠席：伊勢坊 美喜、富永 寛隆）

（2）事務局

辻事務局長、石野事務局次長、事務局職員11名

4 配布資料

別添のとおり

5 会議概要

■ 審議事項（1）

わたSHIGA輝く国スポ（第79回国民スポーツ大会）競技別リハーサル大会候補競技（案）
の内定について

※ 事務局より説明 → 原案どおり承認

【質 疑】

<委員長>

アーティスティックスイミング（AS）は開催しないということだが、大丈夫か。

<委 員>

リハーサル大会の基準に合う大会がなく、近畿大会は毎年大阪で開催されており、動かすことができない。全国大会は、国体を上回る規模の大会である。草津のプールでは、競泳、飛込、水球のリハーサル大会をするので、競技運営の経験は積める。国体開催県の半数で、リハーサル大会を開催されていない。

<委 員>

バレーボール競技については、現状、成年種別の大会を予定している。うち、近江八幡市では、本大会で実施されるバレーボール競技少年種別に合わせた少年のリハーサル大会をできないか調整中である。代替えとして、別の大会を行うかどうかの判断を近々報告する。

<事務局>

変更の可能性がある競技も含めて承認していただきたい。ボクシングは、現時点では近畿地区で役員や審判が不足していることもあり、リハーサル大会を実施しないと聞いており、ゴルフと高校野球は、既に経験豊富でありリハーサル大会は実施されない。今後、変更や追加が生じた場合は、各委員へ報告する。

■ 審議事項

練習会場案に係る会議の公開について

○わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会競技運営専門委員愛会議公開方針、および滋賀県情報公開条例により、審議事項（２）は非公開としてよいか。

※ 事務局より説明 → 原案どおり承認

■ 審議事項（２）

わた SHIGA 輝く国スポ（第 79 回国民スポーツ大会）練習会場（案）について

※ 事務局より説明 → 原案どおり承認

※競技運営専門委員会会議公開方針第 2 の 1（２）に基づき、非公開で審議。

■ 審議事項（３）および報告事項（１）①

わた SHIGA 輝く国スポ（第 79 回国民スポーツ大会）サッカー競技会会期変更（案）について（審議事項）

国民体育大会委員会での決定事項について（報告事項）

① わた SHIGA 輝く国スポ（第 79 回国民スポーツ大会）競技会会期の決定

※ 事務局より説明 → 原案どおり承認

【質 疑】

<委 員>

京セラ株式会社滋賀八日市工場総合グラウンドについては、２面は難しいという申し出をされており、東近江市能登川グラウンドを新たに候補にしているが、芝の状態があまり良くない。（公財）日本サッカー協会も現状では使用が厳しいと申されており、令和 5 年から 6 年の施設整備により本大会に間に合わせるように努めていただく。リハーサル大会では使用できないかもしれないが、今後は県と市で整備を進めていただきたい。

<事務局>

この件は、県・市・県競技団体の 3 者で対応している。グラウンドは、芝の張替はなくメンテナンスでの対応を東近江市は考えている。グラウンドメンテナンス経験のある業者が施工する形で取り組むと伺っており、県の補助制度も活用していただきながら円滑に進めてまいりたい。

■ 審議事項（４）

わたSHIGA輝く国スポ（第79回国民スポーツ大会）デモンストレーションスポーツ実施基準要項（案）について

※ 事務局より説明 → 原案どおり承認

【質 疑】

<委員長>

デモンストレーションスポーツは、各委員が所属しておられる競技団体とはまた異なった競技種目を市町と連携をとりながら進めている状況である。会期は令和7年4月からとされ、国スポの機運醸成を図る意味で重要なものであり、広報活動が大きな意味を持つ。

市町やデモンストレーションスポーツ主管団体は、様々な協議会等において既に議論が進んでいるのか。

<事務局>

これからと考えている。デモンストレーションスポーツは、機運醸成の面においても大切なものである。2月末に、主管団体、市町、県の3者が一同に会する会議を行い、その場でもスケジュール等を周知し共有を図っていく。来年度は、紹介リーフレットを作成する予定であり、広報面にも力を入れていきたいと考えている。

<委員長>

福井国体の時には、駅でデモンストレーションスポーツの広報冊子を配布されており、各市町で実施される競技が一目でわかるなど、機運醸成に一役買っていた。

■ 報告事項（1）②

国民体育大会委員会での決定事項について

① わた SHIGA 輝く国スポ（第79回国民スポーツ大会）正式競技 競技名の変更

【質 疑】

<委員長>

県競技団体や競技会名はボートの名称のままなのか。変更予定はあるのか。各学校や大学などは、ボート部や漕艇部など多くの名称が残っている。

<事務局>

県競技団体でも変更に向けた動きがあり、今後、総会等に諮るなど、これから取り組まれると聞いている。

■ 報告事項（2）

わたSHIGA輝く国スポ（第79回国民スポーツ大会）デモンストレーションスポーツ主管団体変更（案）について

※ 事務局より説明

【質 疑】

<委員長>

今回申請のあった近江八幡市以外の他の市町でもデモンストレーションスポーツ主

管団体の変更や追加があるのか。情報があれば伝えてほしい。

<事務局>

現時点では正式に伺っていないが、今後は変更や追加の可能性があるので、その際は速やかに手続きを進める。

<委員長>

これを機会に、各市町のスポーツ協会が大会運営のための組織を強固なものにしていくことは大切なことであると思う。

■ 報告事項（3）

「いちご一会とちぎ国体」競技運営に係る報告について

※ 事務局より説明

【質 疑】

<委 員>

スポーツを取り巻く機器のデジタル化が進んでいる。サッカーの試合では、リアルタイムで記録入力を行い、試合中に前半の試合結果をWEBで確認できるようになっている。サッカー協会ではシステム化されているが、国スポでも同じシステムが使えるのか。各競技団体では、どんどん進んでおり、その操作は誰がするのか。各競技団体で行うのであれば、記録本部は不要なのではないかと思われる。WEBでできる時代であるにもかかわらず、今時、FAXにて記録集計を行っているというのはどうかと思う。記録の方法や情報発信のあり方など県としての方針はどうか。

<事務局>

事務局員がとちぎ国体の記録研修業務へ参加した際、委員と同じように感じており、記録業務は3年前のままで止まっている印象を受けた。記録システムは、JSPPO指定の業者が開発したシステムを活用することとなっており、そこに至る調整が必要と考える。

とちぎ国体では、結果記録が県の記録本部に届いて記録システム上にアップされるより先に、市町の実行委員会や競技団体のHPにアップされている事例が見られた。ライブ配信では、国体チャンネルやNHKの放送があることにより、一定の規制があるように聞いている。

<委 員>

弓道では、20～30年前のアナログの記録方式であり、未だに変わらない。とちぎ国体でもJSPPOの指示で行っていると聞いたが、このペーパーレスの時代に大量の紙を印刷することは無駄であると思った。

国体チャンネルがあることによるライブ配信規制は理解できる。記録配信については、高体連でも迅速に速報を発信していることもあり、2025年滋賀国スポの弓道では、デジタル化を進めていきたい。補助員の数を減らすこと、記録本部のあり方を変える、日本全国どこからも結果がわかるなどメリットが多くあると考える。JSPPOは、そのようなことをしてはいけないというなら、この時代になぜ駄目であるのか明確な回答

がほしい。記録配信のミスがないよう十分に配慮しながら、観客にとって見ていてワクワクするような方法をとらなければ、直接見ている人のみの大会となり、多くの人の共感を得られない。また、翌日の新聞に少し掲載されるだけでは、国スポ自体が盛り上がらないと思う。

また、弓道では銃剣道同様に国体での持ち回り備品がある。これも多くの補助員を必要とし、また、保管場所も必要となり無駄が多いように思う。彦根市とはデジタル化を活用して取り組もうと進めている。競技団体によっては、遅れているところと進んでいるところの差が大きい。国体から国スポへ名称が変わるので、国体時の方法は時代遅れであると滋賀県からもしっかりと発信してほしい。

観覧席については、コロナが収束しても以前のように仮設の大きな観覧席を設けるというのはどうかと思う。弓道競技は、施設内に設置できないところもあることから、パブリックビューイングを考えている。コストをかけずに観客が楽しめる方法を考えていけると良い。

J S P Oがどのような方向性を持っているのか非常に疑問を感じる。国体から国スポへの変更を一つの機会と捉え、滋賀から新しい形を打ち出してほしい。

<事務局>

デジタル化については、とちぎ国体で複数競技を拝見したところ、競技種目により結果が出るスピードが大きく違うと感じた。やはり、早く結果の出る競技はスマホなどのデジタル端末を活用している。県もDXを推進しているので、国スポに代わるタイミングなので見直せるところは見直していきたい。

観客のあり方については、とちぎ国体ではコロナによる入場制限があったから盛り上がりに欠けていたわけではなく、オンラインなどで見ていた方もおられるなど見せ方に工夫を感じていた。知事からは、今までの国体を継承するだけでなく、滋賀として必要なものと不必要なものを十分精査していくことが、滋賀らしさに繋がると云われている。デジタル化や観客の観点で改めて確認していくので、参考にさせていただく。

<委員長>

このような話題は、広報委員会でも議論されるのか。

<事務局>

広報専門委員会は、3月末に開催予定であるが、競技の見せ方までは議論していない。国体チャンネルについては、どの専門委員会かわからないが、しかるべきタイミングで議論する。

<委員長>

この件は、どの専門委員会か担うのかわからないが整理してほしい。現在のコロナ下ではライブ配信は当たり前である。大学のバスケットボールの試合でも、学生がボランティアとしてカメラマンの役を担い、経費節減してライブ配信している。

<委員>

柔道連盟の役員として、障害者と健常者の両方の業務に携わっており、柔道競技は接触が多いため感染対策に苦慮している。本連盟で行っている対策は、アルコールではない独自の消毒液を使用している。その効果は、手袋をはいているようで半日は十分に効

果があり、大きな大会を招致した時でも一度も感染者を出していない。選手が安心して競技のできる環境をつくることが指導者の役割である。

<委員>

練習会場について、本会場が練習会場に割り当てられている競技があるが、それにより練習時間などの制約を受けることがあるのか。

会期前の競技会会場や駅に、会期前競技まであと何日というカウントダウンボードを設置してほしい。モチベーションがあがり、歓迎ムードにも一役買うことから配慮してほしい。

とちぎ国体でのオープンウォータースイミング（OWS）競技の中止は、県・市・中央競技団体・県競技団体の連携がとても悪かったように聞いている。市町は開催の意向が非常に強かったが、県および県競技団体による調整の必要性を感じたので、危機管理マニュアルが必要であると思う。危機管理マニュアルについては、どこが中心となって決めるのか。市町が大会開催の可否を躊躇なく判断して迅速に対応できるよう、態度決定プロセスのマニュアル作成を行い、事前に打ち合わせをおこなうなどの取り組みが必要ではないか。

<委員長>

愛媛国体において水泳競技は中止になったように聞いていたが。

<委員>

災害が起こり、競技日程が3日間から2日間へ短縮になり、競技運営は大変であった。

<委員>

福井国体では、弓道の遠的競技会場のテントが飛んで中止になったことがある。中止決定は、県と中央競技団体と市町の判断である。

<委員長>

国体で皇室が来られる競技は、どれくらいあるのか。

<事務局>

皇室の方は、それなりの数の競技へ観戦に行かれる。観戦に来られると警備が急に厳しくなり、多くの人員を必要とする。直前にならないと正式決定されないので、決定の情報が入り次第、速やかに市町や競技団体と連携して対応する。

<委員長>

皇室が来られると、競技の進行が予定通り進まないこともある。観客の動線にも大きく影響する。そのことも含めたマニュアル作りをお願いしたい。

<委員>

競技団体の事務局体制が不安であり心配である。国スポに向けて県や市町の事務局は増員されているが、競技団体は変わらない。年々事務量が増えていくのだが、先が見通せないし事務量もわからない。普段の事業に対する業務に国スポの業務が加わるとなると、誰が担うのか、新たに人を雇わなければならないのかと心配する。強化費は多く頂いているが、事務仕事に対するサポートや費用面について非常に不安があるので、県はどのように考えているのか聞かせてほしい。

<委員長>

その点は非常に大切なところであると思う。サッカー競技のように法人格を持っている競技団体はいくつかあるが、ボクシングは、組織を支える人がいないという話を伺っている。中学校の部活動が地域移行すれば、先生方の仕事が減るのかは疑問であり、競技団体は益々大変になるであろうと思う。

<事務局>

強化費申請等の書類は、なるべく簡素化しようとしており、以前と比較すると簡素になっていると思う。県事務局の体制が整い、競技団体の手伝いが出来れば良いのだが、県も準備しなければならないことが多くある。先催県から、国体を通して競技団体へ負担をかけないように心掛けたと伺っており、同感している。選手強化や競技運営では、競技団体には協力していただかなければならないことが多くあり、一つひとつの業務について、競技団体の手を煩わせなければならないのかを見極めていきたい。極力手間をとらせず、共に準備を進めるなかで、手伝えることは手伝う気持ちを持って取り組んでいきたい。

来年度は、県事務局人数は少し増員される。国スポ・障スポを知らない職員も担当になるので、ご迷惑をおかけすることもあるかもしれないが、皆様にご指導いただき、サポートをできるところはサポートしながら大会準備を進めていきたい。

<委員長>

競技団体への負担という面では、各競技においてデジタル化が進んでいるにもかかわらず、機器を操作できるのは競技団体だけという実情がある。市町も県と同じように意思統一してほしいと思う。

<委員>

バレーボール協会の事務局は役員宅にあり、自宅に書類・備品等保管されている。国スポが終わるまで、会議や書類が更に増えるため貸事務所(他競技団体と共有で可)の支援をお願いしたい。競技団体が利用できる会議室はダイハツアリーナにできたのだが、机ひとつ分なので狭く、仕事や会議ができない。

<委員長>

ダイハツアリーナを建設する時の重要課題であったが、実現されなかった。

<委員>

柔道連盟もバレーボール協会と同様に、役員の自宅が20年以上も事務局になっている。皆さん来ていただき大変ありがたいが、競技団体が自立し、しっかりと会議ができるための場所の確保をお願いしたい。国スポを開催するなら、そのような面も考えてほしい。

<委員>

テニス協会でもどこか事務所がないかと話をしている。福井県では、古い施設ではあるが借用して事務所を構えられ、その場所で市町と協力しながら国体の業務をされていた。国体が終了してからも継続して利用されていると聞いている。国スポを機会に各競技団体でそのような形で業務ができれば良いので、県や市町にサポートしていただけると有難い。

<委員長>

この件については、県とスポーツ協会で課題整理をお願いしたい。

■ その他

(1) 競技運営専門委員会における今後のスケジュールについて

※ 事務局より説明

<委員長>

競技運営専門委員会は、大会が近づくにつれて開催回数は増えるのか。

<事務局>

内容に応じて検討するので、ご協力いただきたい。

<委員長>

各委員からの案件に対する様々な意見は、事務局での整理が大変であるとは思いますが、是非ご検討いただきたい。

【全体を通して】

特になし。

■ 連絡

<事務局>

本会議は公開されるので、各委員の皆様は議事録の確認をお願いする。

非公開の審議事項は、資料を回収させていただく。

次回の第15回競技運営専門委員会は、令和5年の6～7月頃を予定しており、後日、日程調整をさせて頂く。

以 上